

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 門 脇 陽 子 姉 妹

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 12:1 聖なる、聖なる、聖なるかな

聖なる、聖なる、聖なるかな 三つにいまして一つなる

神の御名をば あさまだき 起きいでてこそほめまつれ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 12:2 聖なる、聖なる、聖なるかな

聖なる、聖なる、聖なるかな み手のわざなるものみなは

三つにいまして一つなる神の大御名ほめまつらん アーメン

公 同 の 祈 禱

救 済 史 祈 禱 ① 命 の 契 約 ・ 原 福 音

天地のすべてのものを創造された、父・子・聖霊なる神さま、あなたは人間を神のかたちに創造し、すべてよきものを与え、地にあるものを支配するように命じ、命の契約を結んでくださいました。この祝福と光栄を心から感謝し、御名をあげます。しかし、わたしたち人間は、あなたの戒めに背いて墮落し、罪と死に支配される者となってしまいました。それにもかかわらず、あなたはわたしたちを愛し、探し求め、救い主がサタンのかしらを打ち砕くとの喜ばしい約束を与えてくださいました。この約束が、キリスト・イエスの日に実現したことを、心から感謝します。(創1～3、黙22、ロマ16)

献 金 (黒) 大会開催日献金 (赤) 大会開催日献金 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書8章26～39節(新約聖書119頁)

説教・祈祷 「霊界の支配者イエス」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 54 み神の言葉をかざして進まん

1 み神の言葉をかざして進まん 逆らう悪魔は手立てを尽くし
いかにたけく 責め脅すとも

2 力の元なる主共にませば 悪魔の巧みもなどかは恐れん
勝ちは常に主の御手にあり アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあげさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 64 み恵みあふるる

み恵みあふるる 父・御子・御霊の ひとりの御神に 御栄え尽きざれ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤兵庫長老(司会・受付 次週:門脇陽子長老)

本日 受付 1階:藤井牧子執事 2階:佐藤紀子執事 / 動画:番場駿也兄弟 録音:大日南信也執事

六週 受付 1階:大日南隆夫執事 2階:加藤良明執事 / 動画:森川莞太兄弟 録音:大日南悠兄弟

I 見えるもの見えないものを支配する主イエス

先週の嵐を静める奇跡では、風と荒波とをお叱りになりました。風と波が悪さをしているのではありません。イエスが言葉でわざを行なうことができる方であることを描いているのです。すなわち、イエス様は主なる神様なのです。天地創造の神と同じようなことができるのを見て、弟子たちは「いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか」と言いました。

きょうの「霊界の支配者イエス」のエピソードは、いったいこの方は誰なのかという話の続きで意味があります。つまり、風と波をお叱りになったわざは「自然界の支配者イエス」でした。きょうの話は「霊界の支配者イエス」です。両方合わせて、イエス様は、見えるもの見えないものを全て支配するお方です。そんなお方は神以外にはないのです。

ただ、この時点では、弟子たちの知識と悪霊の知識には差がありました。弟子たちは「いったい、この方はどなたなのだろう」と半信半疑ですが、悪霊は「いと高き神の子」と、ちゃんと知っています。

II 悪霊に取りつかれた人の癒し

さて、イエス様と弟子たちはガリラヤ湖の「向こう岸」に着きました。「向こう岸」とは、こちら側から見た言い方です。こちら側は、ユダヤ人の町、向こう側は異邦人の町です。豚肉を食べないユダヤ人には「豚飼い」はいないので、すぐ分かります。

また向こう岸は崖ですが、こちら側は砂原・草原です。向こう岸は、崖と墓場で、悪霊か幽霊か何か出そうな所です。実際出てきたのは、悪霊に取りつかれた狂暴な人間でした。この話、マタイでは二人いて、地名も「ガダラ人の地」と、ちょっと書き方が違いますが、同じ話と置いていいでしょう。ただ、ルカの方が2倍くらい長いです。詳しく調べて書くと、前置きで言っているとおりだなと思わされますが、参考資料にしているマルコ福音書と同じくらいの分量です。

さて、その狂暴な男は襲いかかってくるのかと思ったら、イエス様を見ると大声で「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ、頼むから苦しめないでほしい」と言いました。イエスの正体を、弟子たちはまだはっきり分かっていなかったのですが、悪霊は知っていました。「神の子」だと。

悪霊は、始めからイエスがキリストであることを知っていました。少なくとも、イエス様がヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼を受けてメシアに任職された時から知っていました。メシア任職のあと、すぐ荒野に導かれて悪魔の誘惑を受けました。その時、悪魔は言いました。「神の子なら石をパンに変えてみる・・・」、「神の子なら高い所から飛び降りてみる・・・」。

悪魔の企みは、イエスの人間性より神性を引き出すことでした。神の子がなぜ人間になったか、知っていたからです。そして、悪魔の悪巧みがぶち壊される時も知っていました。イエスが十字架に死んで復活する時、メシアはサタンに勝利することを知っていました。サタンは頭を砕かれる蛇のようになると知っていました。主なる神から宣告された、「女の子孫はお前の頭を打ち砕く」という、アダムへの契約が実現することを知っていた

のです。

Ⅲ 悪霊を追い出す主イエス

だから、悪魔の手下である悪霊たちの企みは、イエスの人間性よりも神性を引き出すことでした。神の子が人間になったのは、十字架に架かって人間を罪から救うためであると知っていたので、何とかそれを妨害しようとするのです。

「この男から出て行け」と命じられたので、悪霊は悪あがきしました。イエス様から「名はなんというか」と聞かれて「レギオン」と答えましたが、マルコ福音書によると「名はレギオン。大勢だから」と答えました。そこでルカは「たくさんの悪霊がこの男に入っていた」と説明しています。

マルコ福音書に書いてないのは31節です。「そして悪霊どもは、底なしの淵へ行けという命令を自分たちに出さないようにと、イエスに願った。」だから、悪魔と悪霊ども、サタンとレギオンは、地獄がどんなに恐ろしい所かも、人間よりは知っているようです。

ただ驚くのは、イエス様がその願いを許可なさったことです。まだ地上にいることを許可なさいました。すると今度は私たち人間が困ることになります。悪魔と大勢の悪霊どもが、私たちの周りをうろついています。そういうことになります。しかし、それがなければ、私たちはイエス様に助けを求めて祈りません。悪霊どもが「底なしの淵へ行けという命令」を下されるのは最後の審判であります。

そこで大勢の悪霊レギオンは、豚の群れに入ることを願って許可されました。マルコ福音書によれば2000匹です。豚肉を食べる人間からするともったいない話ですが、ユダヤ人の弟子たちからするともったいない話ではないのです。そういう出来事ですが、豚肉への関心が強いと本筋が見えなくなります。トンカツ、カツ丼・・・。

Ⅳ エピソードの結末

町中の人々は、2000匹の豚の命よりも一人の人の命が救われたことを喜ぶべきであったのに、喜びませんでした。イエス様の言葉が入ったから悪霊が出て行ったのに、イエス様にこの地方から出て行ってくれと言いました。

悪霊は、豚が溺れ死んだあと、どこへ行ったのか分かりません、不気味な話です。ホラー映画に出てくる悪霊は、人間やら動物やらいろいろなものに出たり入ったりします。聖書の話が元になって、悪魔払いなどが行なわれてきましたから、そういう映画が作られるとも言えます。このテキストも、そのあと悪霊はどこへ行ったのか分からない、不気味な話です。

しかし、このテキストは、一つのことだけ、はっきり教えています。人の中にイエスが入って来られたら、悪霊は追い出されるということです。だから、イエス様が私の中におられるようにしていれば、悪霊がどこをうろついているか心配する必要はありません。

この時点では、弟子たちは、まだ「この方はどういう方なのだろう」と分かりませんが、ルカが書いている時点では、この方こそ主なるキリストであると分かっています。神の子にして人となられた救い主。わたしたちの救いは、これを他にしては天下の誰にも与えられてないと、ルカ文書第二巻『使徒言行録』が言うとおりです。

悪霊は、日常の人間の中に巣くうものです。2000年前、主イエスの歩まれたイスラエ

ル・パレスチナの地は、今も、人間たちが狂暴な殺し合いをしている地域です。また、世界のあちこちで狂暴な殺し合いがあります。つい70～80年前、日本も狂暴な人殺しをアジア各地でしてきました。そういう狂暴なことは、普段狂暴な人がするのでしょうか。いいえ、ふだん狂暴には見えない人が敵意をもった時に、悪魔が吼えたける獅子のようになるのです。

悪霊は狂暴なやり方だけでなく、巧妙なやり方もします。それは、エデンの園の時からです。今、どのように私たちに働きかけてくるのか、見えないし分かりません。しかし、悪霊の目的は神から人間を引き離そうとすることです。そして、主イエスは、神と人を結び合わせてくださる救い主です。だから、悪霊は、イエスの邪魔をしようとするのですが、イエスに出て行っていただきたいという人々は、悪霊が大歓迎します。

悪霊の働きとか、悪霊とはどういうものかとか、詳しく知って心配する必要はありません。一つのことだけ知っていればよいのです。私の中にイエス様が入ってくだされば、悪霊は追い出されるということです。疫病感染の中でも、教会と自宅で礼拝し、聖書を読み、祈りましょう。キリストの言葉を豊かに蓄えましょう。イエス様に入ってくださいことだけ心がけましょう。